飯能市 消費者団体連絡会（しょうだんれん） 会報

No.24

2008年10月10日発行
事務局 飯能市生活安全課内
☎973-2111 内線178

おっぺして

夏の平和映画会 「教えられなかった戦争 中国編」

8月23日

毎年恒例となっている夏の平和映画会は、今年度は8月23日美杉台公民館にて、昨年に引き続き、高岩仁監督「教えられなかった戦争」シリーズ「中国編」を上映致しました。

高岩監督はこれまで明治以来現在にいたるまでの、日本によるアジア侵略の実態と、侵略を誰が必要としたのか、その原因を追究した作品「教えられなかった戦争」シリーズを二〇年間つくり続けていらっしゃいました。マレーシア、フィリピン、沖縄、再度フィリピンで取材した4本の映像作品を完成させ、『戦争案内』というブックレット1冊と映画を発表されています。そしてシリーズ5作目が今回の「教えられなかった戦争・中国編」です。

1時間40分程の上映が終わり、部屋が明るくなった後も映画会の参加者皆が押し黙ったままで、誰も動こうとしませんでした。この光景そのものが、この映画が、いかにずっしりと多くのものを私達一人ひとりに語りかけてきたかを物語っていたと思います。

この映画は、中国において残虐の限りを尽くした元「戦犯」の人々を中心に、元七三一部隊員、元満蒙開拓青少年義勇軍隊員、八路軍兵士など、多くの人々への丹念な取材と証言によって構成されています。耳を覆いたくなるほど陰惨な戦争の実態を伝える証言の数々、ここまで人は残虐に浅ましくなりうるのか、その非人間性の凄まじさに、戦争という狂気を今更ながら思わずにはいられませんでした。

そして映像を通し、これ程までに罪深い侵略戦争がなぜ引き起こされていったのか、近代日本はなぜ戦争を繰り返してきたのか、誰が戦争を必要としてきたのかという戦争の真実が明らかにされます。

産軍一体となって仕掛けていった数々の侵略によって、莫大な利益を上げ続けた財閥。そしてその代償となったのは、侵略され、どん底まで収奪され、殺され、人権蹂躙されたアジアの数限りない人々です。この戦争によって中国内だけでも1000万人もの死者が出ました。アジア全体で約2000万人、日本でも300万人の命が失われました。

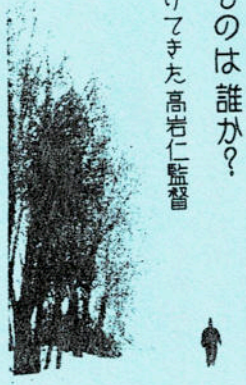
振り返って今、様々な新しい法律を作り派兵を推し進めようとする現在の日本、誰が何のために戦争を必要としているのかを、今一度じっくりと見極めなければならないことをこの映画は語りかけてきます。

教えられなかった戦争　中国編
―侵略からの解放・革命―

ドキュメントビデオ
1時間38分
製作　映像文化協会
監督　高岩　仁
2005年

戦争を必要とするものは誰か？

くりかえし問い続けてきた高岩仁監督



元日本軍兵士達と中国の民衆が、自らの経験と戦争の事実を語る。

昨夏、監督はフィルムと機材を抱え飯能に出向いてくださり、上映後、長年かけて丁寧に収集した豊富な資料を基に戦争の真実を深く熱く語ってくださり、参加者に大きな衝撃と印象を残してくださいました。監督は、ご後「韓国・朝鮮編」を制作するために朝鮮半島に取材に行く予定だと仰っていましたが、その時すでに癌を患っておられ、残念なことに「韓国・朝鮮編」は未完のまま、私達は今年1月突然の訃報を受け取ることとなったのです。

生涯をかけて戦争の悲惨さだけでなく、戦争が引き起こされる原因の社会経済学的分析を追及し、映像によって表現し続けていらした高岩監督。その作品の根底を流れる人間への深い愛情と平和への希求に敬意を捧げ、監督のご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。

（H）

消団連の市内施設見学会

ゴミは 水は どこから どこへ

2008年7月23日

3月の「ゴミ学習会」を受けて、では現場を見てみよう。合わせて水道水の上流と下流も、と見学会を実施しました。

■クリーンセンター

岩根橋と上畑を結ぶ山の上、開発が進む美杉台と道路を隔てた所にあり、市内の可燃・不燃・飲料缶・びん・有害ゴミと粗大ゴミはすべてここに集められます。（プラ・ペット・紙布は委託業者による回収）この施設は平成12年約22億円をかけて改修されましたが、建物全体の老朽化が進んでいるため建て替えが検討されています。炉では多様な化学物質を一緒に焼却するため、安全に処理するには莫大なお金（税金）が必要です。収集の有料化やメタンガスを発生させる施設が検討されていますが、産業の仕組みを見直さなければ、ゴミ自体を減らすことは出来ません。多様な製品はその組成が分かっている生産現場に戻すことが一番安全な処理の仕方であり、リサイクルを考えた製品の開発へも繋がります。

クリーンセンターの一角にある毎月第3金曜日に開かれるリユース品販売会の会場にはまだ充分使える家具などが展示されていました。また「グループせせらぎ」が廃油を集めて石鹸を作っている施設も合わせて見学しお話を聞きました。ここで作られる「飯能せっけん」は扱っている処が少なく手に入れにくいため即売会は大好評でした。（現在扱っている処は総合福祉センターと飯能ぎんざリサイクルセンター）

■小岩井浄水場・配水場

自由の森学園のすぐ下にあり、名栗川の小瀬戸にある取水場からポンプアップし水道水として約6割を供給しています。約8時間かけて作られる水は吾野・名栗の浄水場の水に比べると見劣りしますが、県水（浦和にある大久保浄水場から来る、約1割を供給）よりは多少良いようです。ここでは緊急時の安定給水の為に配水タンクの建設が予定されています。小瀬戸より上流の原市場で出された排水は24時間位で水道の蛇口へ戻ってくるそうですし、県水も入間川・荒川経由で2週間位をかけ循環しています。

■浄化センター

成木川と入間川との合流部にあり、市街地の約1万人分の下水を10・12時間かけて処理しています。受け入れを止めることは出来ないので、建て替えのために広い空き地が用意してありました。隣接して、バキュームカーで運んでくる、し尿・浄化槽汚泥浄化の施設「環境センター」があり、原市場中学校周辺は「原市場浄化センター」がカバーしています。飯能市は合併浄化槽へ補助を出すなど、清流保全が早くから取り組まれています。

どの施設も億単位のお金が掛かり、財政を圧迫しています。緑と清流の街にふさわしいゴミ処理・水質保全のあり方にもっともっと市民の知恵が必要です。

暑い日でとても疲れましたが、昼食は市役所の近くにある「あおーら」（精神障がいを持つ人たちのための仕事場）のおいしいカレーでした。

（K）

農民連「食品分析センター」見学しました

8月12日、消団連の主催した「農民連食品分析センター」（東京都板橋区）の見学会に飯能の仲間と中1の息子の計5人で行ってきました。

この分析センターは、1996年に設立されました。

98年、中国産の冷凍ほうれん草に残留農薬があることを発見し、それを公表することで社会に問題を投げかけ、食品衛生法を改定させるきっかけを作るなど、小さな施設ながら日本の食の安全のために一躍かっている所です。この施設は日本の食の安全と自給率向上を願う農民と消費者の募金によって成り立っているそうです。農薬や遺伝子組み換え、重金属、細菌の検査ができます。

実際に検査室に行くと、何mも巻かれたガラスの細い管を通って検査結果が出るまで（長い時間がかかるのですが）粘り強く取り組んでいる様子がうかがえました。職員の方のお話は実験に裏打ちされたことが数多く、知らないことも多く、たいへん勉強になりました。

農民連 食品分析センター

おそば屋さんで注文した蕎麦が水以外は全て外国産、というのではあまりにも悲しすぎます。輸送のために使う燃料のことを考えると、国内で食料を生産する方がずっと温暖化防止にもなります。地産地消がやはり大事だと改めて思いました。

日程、人数、見学内容の希望を伝えれば誰でも見学させてもらえます。興味のある方はぜひ行ってみてください。

（N）

★農民連食品分析センター
東京都板橋区熊野町47-11
TEL/FAX：03-3959-5660

★検査センターでのお話の中で、輸入小麦のポストハーベストが話題になり「埼玉県は給食のパンに県産小麦を使っています」と説明がありました。これは、市民のグループ「埼玉学校給食を考える会」の粘り強い活動の成果です